

しんぶん

赤旗

日刊 ●月 3497円
日曜版 ●月 990円

南地域後援会は本町・寿・緑・若松・栄・白山・船戸・新田がエリア

連絡をいただければ「しんぶん赤旗」の見本を届けます



しらかば

日本共産党我孫子南地域後援会

発行責任者 木村 文次

消費税減税実現へ その財源ここにある

比例は日本共産党、選挙区は白石ちよ候補へ

7月3日(木)公示、7月20日(日)投票の参議院選挙。ここにきて消費税減税が、財源論を含めて最大の争点に浮上しています。

増税が医療や介護の破壊の危機を招く

自・公政権は「財源がない」の一点張りですが、本当に財源はないのでしょうか。

政府は「社会保障のため」といいながら、消費税増税をすすめてきましたが、実質削減の公的年

5%の一律減税とインボイスの廃止を

日本共産党は、消費税は廃止をめざして緊急に5%への一律減税を行いインボイス制度の廃止を掲げています。

政府がインボイスを設けた口実は、食料品などに軽減税率を導入し複数税率になったことです。

消費税を一律5%に減税すれば、導入の口実がなくなり、廃止することが可能です。

大企業・超富裕層には優遇減税

金、医療費窓口負担増、高すぎる国保税。さらに低い診療報酬、介護報酬引き下げ。その結果、医療や介護の破壊の危機が叫ばれる事態を招くことになりました。

大企業・超富裕層には優遇減税

ところが、消費税増税とほぼ同じ期間に、政府は大企業の法人税減税や超富裕層が恩恵をうける所得税減税をすすめたのです。

大企業への優遇税制は、法人税引き下げのほか、研究開発減税や海外子会社からの配当金非課税など、さまざまな優遇措置により、消費税は法人税減税



と景気悪化による減収の穴埋めに消えてしまったのです。

自・公政権は2013年以後、法人税率の引き下げを続けてきました。払う税金が少なくなれば、

企業の利益は増えます。大企業の利益を優先の企業・団体献金

大企業の利益を優先の企業・団体献金

大企業の利益を優先する政治そのもの。その大きなテコとなっているのが企業・団体献金です。

巨額の献金を出す財界・大企業に、自民党はその「見返り」として法人実効税率の引き下げなど、さまざまな優遇措置を行っているのです。

超富裕層にも優遇措置

超富裕層への優遇措置もあります。所得1億円を超えると、所得税の負担率が低くなるという不公平です。

大企業・富裕層に応分の負担を

大企業は、いまより税金を負担する力を十分に持っています。

大企業の内部留保は、め込み金は約540兆円へと膨らみました。法人税の実質負担率は小規模企業が18・5%、中堅企



財源あるにゃー

業が20・6%なのに対し、大企業は10%です。これも大企業優遇税制をしてきた結果です。

行きすぎた減税・優遇措置の見直しを

大企業・富裕層への行きすぎた減税・優遇措置を見直して財源をつくること、社会保障をよくし、消費税減税の財源を生み出すことにつながります。(編集部)

十分すぎるほどの税金の負担能力をもっている大企業への税制バラマキをやめ、大企業と富裕層に応分の負担を求める税制改革を行えば、赤字国債に頼らなくても消費税減税の財源はつくれます。

たのしーと

東武野田線の新型車両に設置された「たのしーと」クルマ椅子&ベビーカー用のスペースに1人掛けのシートがあります。車内を向いて座ることも、窓の方を向いて座ることもできます。子どもが座ってもよいし、ベビーカーを持ち込んだ母親がここに腰かけてくつろぐことも可能です。



東武鉄道では新型車両の導入に伴い、東武野田

列車本数の維持を図るねらいがあるといいますが、両数が減ることで混雑がより悪化するのではという懸念の声も上がっています。(緑S)

日本共産党我孫子市議団のホームページのサイトは <https://jcp-abiko.com/> です。

スマホのQRコードはこちらから。→



オオバン

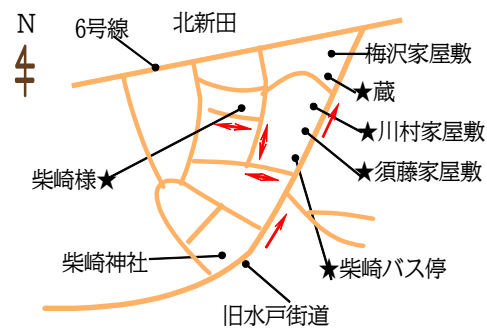
「しんぶん赤旗」が日本外国特派員協会の2025年「報道の自由賞・日本賞」(大賞)に選ばれました▼受賞理由には、「日本の主要メディアは独占的な記者クラブ・・・、与党に積極的に異議を唱えることを長い間ためらってきた」。一方、赤旗報道は「間違いなく、一人の首相が失脚し、昨年10月の衆院選挙での連立与党が過半数を失うことにつながった」とあります▼日本は報道の自由度ランキングで180カ国中66位。大手メディアではなく、「赤旗」に権力監視のスクープが相次ぐのは、どんなタブーもなく、「政治のゆがみ」に切り込む立場を持つているからです▼安倍政権時の「桜を見る会」のスクープにしても、菅政権の日本学術会議会長の任命拒否問題にしても、自公政権を直撃し、首相退陣のきっかけをつくったのは、いずれも「赤旗」報道でした▼企業団体献金も政党助成金も受け取らない唯一の政党。日本共産党の収入の85%は赤旗等の事業収入です▼7月20日は参議院選挙の投票日。今の腐ったメディアと政治をまともにする一番の特効薬は、赤旗を読み日本共産党を伸ばすことです。(R)

我孫子古道巡り

2084

追分から柴崎を巡る⑥

心地で昭和30年代まで中屋（通称ハケ所宿）という旅籠（はたね）があったようです。



今回は、柴崎神社から6号線まで旧水戸街道を北に巡ります。

柴崎神社を過ぎ、西の路地を入り北に向かうと「柴崎様」の祠があります。将門の重臣柴崎左馬督がここで首を切られたという伝承があり、近所の方が祠をお守りしています。



柴崎様

戻り、北に歩くとあびバス「柴崎」バス停があります。この辺りは柴崎の中



川村家屋敷



須藤家屋敷



柴崎バス停近辺

心で昭和30年代まで中屋（通称ハケ所宿）という旅籠（はたね）があったようです。川村家は、磯右衛門が天保2年（1832）ごろ、名主を務めていました。このころの柴崎村は、村高約500石、家数80軒の村で、幕府領と、初鹿野領、新見領の三給で村を治めていました。また北新田は柴崎村の持添新田で、青山の渡船での関係もありそれなりの収入があったようです。



蔵

途中、酒蔵か、醤油蔵か不明ですが、丸に喜のロゴを掲げる蔵があります。

東側は区画整理が進み「柴崎台」になり変貌しましたが、街道沿いは商店らしきものは理容室があるだけで、今でも昔の姿をとどめます。

(栄 関口)

参考文献「我孫子の地名と歴史」「我孫子市史研究」



電車特急「こだま」

特急「はつかり」が登場した1958年は、東海道本線に全車冷房完備の電車特急「こだま」と寝台特急（ブルートレイン）「あさかぜ」が登場した年でもありました。この二つの列車は新時代の特急列車として、颯爽と走る姿が話題を集めました。



寝台特急「あさかぜ」

一方の特急「はつかり」は、それまで東海道本線の特急列車に使用していた客車の「お古」を寄せ集めた編成で、2等車（現普通車）はもちろん、1等車（現グリーン車）にも冷房設備はついていませんでした。（唯一、食堂車だけは冷房装置がついていました）



「カラー」

若松・高橋祥子

「はつかり」の客車に似たブルーの車体に白い帯を巻いた専用塗色で、特急列車らしくする演出がなされました。もともと上野―青森間の途中停車駅は、水戸・平（現いわき）・仙台・一関・盛岡・尻内（現八戸）と東北新幹線の最速列車である「はやぶさ」と同じ位に少

なく、現在の常磐線特急列車が快速電車と変わらない位にやたらと停車する現状からみれば、停車駅に関しては、文字通り「特急」と名乗るにふさわしい列車でした。（次号へ続く）（緑 竹内）

常磐線あれこれ 53

しらかば文芸欄

34

書・寿 芳華



弄泉（ろうせいせん）

清らかな水に手を入れてその清らかな冷たさを楽しむ



特急「はつかり」

なく、現在の常磐線特急列車が快速電車と変わらない位にやたらと停車する現状からみれば、停車駅に関しては、文字通り「特急」と名乗るにふさわしい列車でした。